

漢詩について、今日は、まず、簡単にその歴史と詩人にふれ、次に皆様も良くご存じの私の好きな漢詩をご紹介します。漢詩は、春秋時代の「詩経」に始まり、その二百年後の「楚辞」、梁の時代の「文選」、そして唐の時代に至り五言絶句、七言絶句、五言、七言律詩が確立し、近代詩が確立、現代に至るのです。詩人については、まず東晋の陶潜(陶淵明)、盛唐の張九齡、孟浩然、王維(詩仙)、李白(詩仙)、杜甫(詩聖)。王之涣、王昌齡、高適、岑参、の辺塞詩人達、そして、中唐の孟郊、韓愈、白居易、劉禹錫、柳宗元、元稹、賈島、李賀、杜牧、李商隱、北宋の王安石、蘇軾、南宋の楊万里、朱熹、その後、明、清、現在へと続くのです。ここに挙げた詩人のほかにも、張継、陸羽、陸游や明の高継など多くの詩人がいます。

それでは、ここで少し詳しく詩人の生涯、詩について話をすすめましょう、すべての詩人について話をするには、時間が足りませんので、今日は、盛唐の代表的詩人についてまでとします。

○陶潜(陶淵明) (三六五年〜四二七年) 江西省 沢の出身。地方官・県令。

下級官吏をしていたが、五斗米のために、後輩に頭を下げるのを嫌い、官を引き故郷で田園生活を送った。作品としては「飲酒」、「帰園田」、「四時歌」等がある。

○張九齡 字は子寿。(六七三年〜七四〇年) 広東省曲江の人。玄宗に仕え宰相になる。李林甫と対立。作品としては、皆さまのよく知る「照鏡見白髮」がある。

○孟浩然 字は浩然、名は浩。(六八九年〜七四〇年) 湖北省襄陽市 襄陽の人。

科挙の試験に受からず。張九齡、王維、李白と交友関係にあった。作品としては、「春曉」、「歲暮帰南山」がある。

○王維 字は摩吉 (六九九年〜七五九年) 山西省太原の人。十九歳で科挙。尚書友丞となる。

「王、孟、彞、柳」と称される自然歌人。作品としては、「送別」、「送秘書晁監還日本国」「息夫人」「鹿柴」、「竹里館」、「田園樂」、「九月九日憶山東兄弟」、「送元二使安西」

○李白 字は太白、青蓮居士と称した。(七〇一年〜七六二年) 四川省の人。四十二歳で宮中歌人となる。間もなく宮中を追われ、四十四歳の時、洛陽で杜甫、高適と交友を結び山東へ旅をする。

作品としては、「清平調」、「子夜呉歌」、「秋浦」「峨眉山月歌」、「黃鶴樓送孟浩然之広陵」

「山中与幽人対酌」、「客中作」、「早発白帝城」、「越中覽古」、「月下独酌」、「春夜洛城聞笛」

「哭晁卿衡」、「哭宣城善酪紀叟」、「望廬山瀑布」

○高適 字は達夫。(七〇七年〜七六五年) 河北省滄州市の人豪放な性格。作品としては「別董大二首」、「除夜作」、

○杜甫 字は子美。(七一二〜七七〇年) 湖北省襄陽の人。検校工部員外郎。

作品としては、若い時の詩は靡にはしたが作品は多い。「李絶、杜律」と称された。作品には「春望」、「絶句二首」「登高」、「登岳陽樓」、「望岳」、「兵車行」、「麗人行」、「江村」、等々。

○陶淵明
飲酒二十首 其の五

歸園田居 五首 其の一

結廬在人境

少無適俗韻

而無車馬喧

性本愛丘山

問君何能爾

誤落塵網中

心遠地自偏

一去十三年

採菊東籬下

羈鳥恋旧林

悠然見南山

池魚思故淵

山氣日夕佳

開荒南野際

飛鳥相與還

守拙歸園田

此中有真意

方拓十余畝

欲弁已忘言

草屋八九間

榆柳蔭後簷

四時歌

桃李羅堂前

春水滿四水

曖曖遠人村

夏雲多奇峰

依依墟里煙

秋月揚明暉

狗吠深巷中

冬嶺秀孤松

鷄鳴桑樹巔

戶庭無塵雜

虛室有余閒

久在樊籠裏

復得返自然

○張九齡

照鏡見白髮

宿昔青雲志
嵯陀白髮歲
誰知明鏡裏
形影自相憐

○孟浩然

春曉

春眠不覺曉
處處聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

歲暮歸南山

北闕休上書
南山歸敝廬
不才明主棄
多病故人疎
白髮催年老
青陽逼歲除
永懷愁不寢
松月夜窓虛

○王維

九月九日憶山東兄弟（時年十七歲）

獨在異鄉為異客
每逢佳節倍思親
遙知兄弟登高處
遍插茱萸少一人

息夫人（時年二十歲）

竹里館

莫以今時寵
能忘昔日恩
看花滿眼淚
不共楚王言
獨坐幽篁裏
彈琴復長嘯
深林人不知
明月來相照

鹿柴

送元二使安西

空山不見人
但聞人語響
返景入深林
復照青苔上
渭城朝雨浥輕塵
客舍青青柳色新
勸君更盡一杯酒
西出陽關無故人

○李白

清平調 (四十二歲)

峨眉山月歌 (二十五歲)

一枝濃艷露凝香
峨眉山月半輪秋
雲雨巫山枉斷腸
影入平羌江水流
借問漢宮誰得似
夜發清溪向三峽
可憐飛燕倚新粧
思君不見下渝州

子夜吳歌 (四十三歲)

黃鶴樓送孟浩然之廣陵 (三十七歲)

長安一片月
故人西辭黃鶴樓
萬戶擣衣聲
煙花三月下揚州
秋風吹不盡
孤帆遠影碧空盡
總是玉關情
唯見長江天際流
何日平胡虜
良人罷遠征

秋浦歌 其の十五

(五十四歲)

山中幽人對酌 (五十三歲)

白髮三千丈
兩人對酌山花開
緣愁似箇長
一杯一杯復一杯
不知明鏡裏
我醉欲眠君但去
何處得秋霜
明朝有意抱琴來

○李白

早發白帝城(二十五歲)

越中覽古(四十二歲)

朝辭白帝彩雲間
千里弘陵一日還
義士還家盡錦衣
兩岸猿聲啼不住
輕舟已過萬重山
只今唯有鷓鴣飛

客中作(三十四歲)

月下獨酌(四十四歲)

蘭陵美酒鬱金香
玉碗盛來琥珀光
但使主人能醉客
不知何處是他鄉

春夜洛城聞笛(三十四歲)

影徒隨我身

誰家玉笛暗飛聲
散入春風滿洛城
此夜曲中聞折柳
何人不起故園情

暫伴月將影
行樂須及春
我歌月徘徊
我舞影凌亂
醒時同交歡
醉後各分散
永結無情遊
相期邀雲漢

○李白

哭晁卿衡（五十三歲）

日本晁卿辭帝都 千里黃雲白日曛
征帆一片遶蓬壺 北風吹雁雪紛紛
明月不歸沈碧海 莫愁前路無知己
白雲愁色滿蒼梧 天下誰人不知君

○高適

別董大二首

望廬山瀑布（五十六歲）

除夜作

日照香廬生紫煙 旅館寒燈獨不眠
遙看瀑布掛長川 客心何事轉淒然
飛流直下三千尺 故鄉今夜思千里
疑是銀河落九天 霜鬢明朝又一年

哭宣城善酪紀叟

紀叟黃泉裏
還忝釀老春
夜台無李白
沽酒與何人

○杜甫

飲中八仙歌(七四四年)(三十三歲)

絕句其一(七六四年)

李白一斗詩百篇

遲日江山麗

長安市上酒家眠

春日花草香

天子呼來不上船

泥融燕子飛

自稱臣是酒中仙

沙暖鴛鴦眠

麗人行(七五三年)(四十二歲)長安

絕句其二成都

三月三日天氣新

江碧鳥逾白

長安水邊多麗人

山青花欲然

態濃意遠淑且真

今春看又過

肌理細膩骨肉勻

何日是歸年

春望(七五七年)(四十七歲)長安

江村(七六〇年)成都

國破山河在

清江一曲抱村流

城春草木深

長夏江村事事幽

感時花濺淚

自去自來梁上燕

恨別鳥驚心

相親相近水中鴨

烽火連三月

老妻面紙為棋局

家書抵萬金

稚子鼓針作釣鉤

白頭搔更短

多病所須唯藥物

渾欲不勝簪

微軀此外更何求

○ 杜甫

登 高（七六七年）冀州（五十六歲） 逢 李 龜 年（七七〇年）潭州（五十九歲）

風急天高猿嘯哀 歧王宅裏尋常見
渚清沙白鳥飛迴 崔九堂前幾度聞
無邊落木蕭蕭下 正是江南好風景
不盡長江滾滾來 落花時節又逢君
萬里悲秋常作客
百年多病獨登台
艱難苦恨繁霜鬢
潦倒新停濁酒杯

登 岳 陽 樓（七六八年）岳陽市（五十七歲）

昔聞洞庭水
今上岳陽樓
吳楚東南坼
乾坤日夜浮
親朋無一字
老病有孤舟
戎馬闕山北
憑軒涕泗流